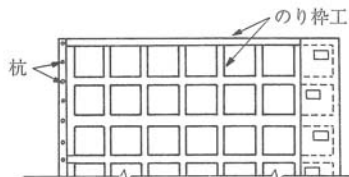


コンクリートのり砕工

護岸のり覆工の一種である。

のり面にコンクリート製の枠を組み、その中に間詰め石を入れたり、植生工、モルタル吹付けを行い保護をする。この工法は、1 : 0.8程度の勾配に適している。



コンクリート張り工

護岸のり覆工の一種である。

護岸のり面に厚さ12~15cmの裏込め砂利を敷き均し、その上に厚さ9~15cmのコンクリートを打設し、のり面を保護する工法である。のり面勾配が緩い場合は、無筋コンクリート、急勾配やのり高が大きな場合には鉄筋コンクリートとするが、すべり止めやアンカーを取り付ける必要がある。

また、コンクリートの温度変化による収縮や、ひび割れの発生を防ぐために、適当な間隔で目地を設ける。

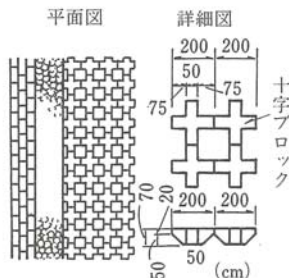
コンクリート張り護岸

川表を厚さ12~15cmのコンクリートで張り、適当な間隔に目地を入れた護岸工のこと。

コンクリートブロック工

根固め工の一種である。

護岸の根固めにコンクリートブロックを使用して、護岸前面の洗掘を防ぐものである。



木工沈床の欠点を補ったもので、各ブロックを鉄筋によって連結し、河床に設置する。粗度が大きく耐久性も高い。コンクリートブロックには、次のようなものがある。

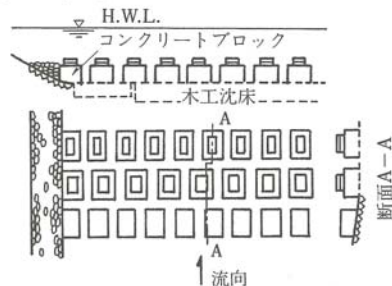
- 十字ブロック
- H型ブロック
- Y型ブロック
- 六脚ブロック

コンクリートブロック水制

水制工の一種である。

コンクリートブロックを水制に使用して、河岸の浸食を防止するものである。

急流河川に適しており、沈床(⇒ p. 83)の基礎の上に、大きな方形ブロックを並べたものである。



コンクリートブロック張り工

護岸のり覆工の一種である。

30~40cmのコンクリートブロックをのり面に敷設したもので、急流河川で多く用いられる。のり面の標準勾配は、1 : 2.0程度である。

計画高水位などを考慮して定められる。

高水工事

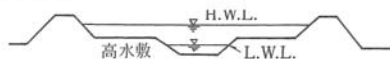
洪水を防止する目的で治水を主とした工事で、次のように分けられる。

- ① 河道工事（堤防工事、掘削・浚渫工事、しょう水路工事、付替え・分流工事）
- ② 流量調節工事（洪水調節池、遊水池、越流堤）

高水工事計画は、計画高水流量を基準とする。

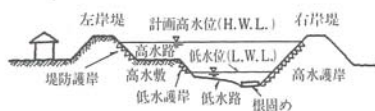
高水敷

堤外地で、高水時のみ冠水する河川敷のことである。



高水路

複断面河川において、計画高水位を流下させる水路のこと。



護岸

堤防・河川を直接保護し、流水による洗掘



を防止する工作物のことである。

護岸は、高水時の表のりを保護する高水護岸、低水路の河岸を保護する低水護岸、高水護岸のうち堤防を保護する堤防護岸、堤防の裏のりを保護する裏護岸とに分けられている。

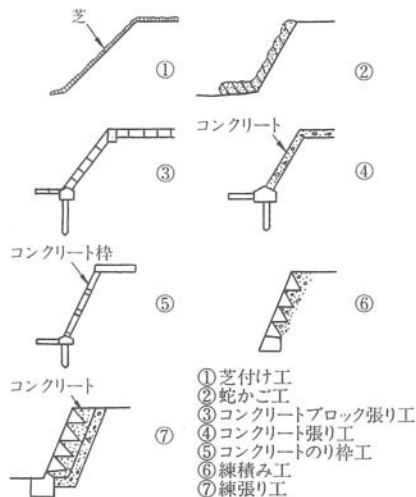
護岸の表面は、適当な凹凸をつけ、流水の抵抗を大きくする。

護岸基礎

のり覆工の荷重を支持し、流水による洗掘およびのり覆工の破壊を防止するため、のり覆工ののり尻部に施工する基礎工のことである。根固め工とは縁を切っておく。

護岸のり覆工

護岸ののり面を被覆し保護する工法である。のり覆工には図のようなものがある。



小段

表のりの流水の洗掘防止および、裏のりでの浸透水がのり面に流出するのを防止するために、堤防に設けられた水平の段のことである。小段は、排水のため1:10~15程度の勾配をつける。

⇨ 裏小段 (p. 71), 表小段 (p. 72)